



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.53

'09夏・秋号



■ tobiume

Waft me the plum blossoms' fragrance
When the East Wind blows.
Let not your master's absence
Consign the spring to oblivion.

いにしへの香りを、
“今”に生かした現代の名香

その香りを大変愛した菅原道真の後を追ひ、
一夜にして大宰府の主の下へ飛んできたといわれる「飛梅」は
あまりにも有名ですが、境内では今も、
来る人々に春の香りを届け続けてくれています。

梅栄堂の《飛び梅》は、沈香、白檀、丁子、桂皮、木香、をはじめ、
甘松、竜腦など、古くから愛され続けた、伝統の
天然香料を“今”に生かし、現代の名香を創り上げました。
ごゆるりと、その香りをお楽しみください。



●標準小売価格 3,150円 (本体価格 3,000円)



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



お店を訪ねて

阪急百貨店 西宮阪急

兵庫県阪急西宮北口駅からデッキで直結する西宮ガーデンズは、西日本でも屈指のショッピングエリア。百貨店をはじめ、専門店、シネマコンプレックス、カルチャーセンター、そして屋上に広がる広

大なガーデンなど、阪急西宮スタジアムの跡地を生かしたこのスペースは、新しい西宮の顔として生まれ変わりました。今回は、その中心的存在である西宮阪急の仏具売り場を訪ねました。

新しい出会いを楽しみにしています。

こちらの西宮ガーデンズがオープンしたのは昨年の十一月。と同時に、西宮阪急百貨店のこの仏具コーナーもできましたので、本当にまだまだ

私はこちらに来る前のお店では、ご年配のお客様が多かったのですが、西宮ガーデンズは場所柄、若い方も



▲コンパクトながら、きれいに配置された店内

これからといったところです。この売り場はそんなに大きくありませんので、皆様見つけるまでが大変なようですが、「西宮にこんなお店ができてよかったわ。」と喜んでいただいております。また反面、このフロアには他にも香り関係のコーナーがたくさんありますので、いろいろ見て回られる間に、たまたまこちらに行き着いて、お買い物をしてくださるお客様もいらつしやいます。私はこちらにお客様が多かったです。ご年配が、西宮ガーデンズは場所柄、若い方も多く、お線香も新しい香りに興味があるようで、コーヒの香りのお線香《残香飛》などもよくお求めいただいております。ご承知のように、昨今の景気の状態から、皆様お買い物にはたいへん慎重で、進物などの高級品も内容をしっかりチェックしてお買い求めになつていらっしゃる感じます。私がこの仕事を始めて五年になりますが、最近ではお休みの日にはお香を焚いたりするようになりました。何事も勉強が大事ですね(笑)。まだまだこれからのこのコーナーですが、一人でも多くの方に知っていただき、喜んでいただけるよう誠心誠意がんばってまいりますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。(談)



- 花期 6月下旬～8月上旬
- アクセス JR富良野線中富良野駅下車
シーズン中はJRラベンダー畑駅(臨時駅)下車
- 連絡先 ファーム富田 0167-39-3939

北海道の気候が香料用ラベンダーの栽培に適していたこともあって、(一九四七年)のこと。昭和二十二年

最盛期には二五〇戸以上の栽培農家がありました。ところが昭和四十年代後半に入り、香料の輸入の自由化が進むと需要は激減。富良野のラベンダー栽培は衰退の一途をたどり、ついには富田氏の農園(現ファーム富田)のみになってしまったのです。駄目だと感じながらも富田氏は夢を捨てきれず、どうしても閉園に踏み切れなかった矢先、思いもよらぬ幸運がめぐってきたのです。昭和五十年、たまたま国鉄(現JR)のポスターに富良野のラベンダー畑が夏の扉を飾り、その美しい風景を目にしたカメランが全国から来訪したのです。そして彼らの写真が雑誌に掲載され

ると、翌年からは次から次へと観光客がやってくるようになったのです。このようにして新たなスタートをきった富良野のラベンダー園は、香料栽培という当初の目的は達成されなかったものの、雄大で清々しい景観とその香りで、以後我々を癒し、楽しませてくれています。現在富良野には、パイオニア的存在の「ファーム富田」を中心に数多くのラベンダー園が存在し、それぞれの個性を競っています。また、ラベンダーとともに毎年配色に工夫を凝らして植え替えられる美しい花畑も人気の一つとなっています。七月のピークシーズンにはかなりの混雑が予想されます。時間にはゆとりを持ってお出かけください。



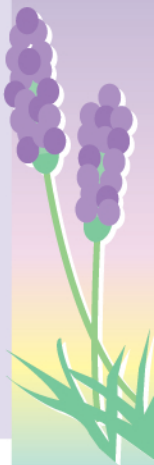
四季彩々

富良野 ラベンダー

大地を埋め尽くす紫色のアート

ラベンダーの花が咲き始めると富良野の初夏が始まります。晴れ渡った青い空、澄み切った空気、そして美しく広がるラベンダーの畑。梅雨のない北海道のいちばん華やかな季節の到来です。そもそも富良野でラベンダーの栽培が始まったのは、昭和二十二年(一九四七年)のこと。

最盛期には二五〇戸以上の栽培農家がありました。ところが昭和四十年代後半に入り、香料の輸入の自由化が進むと需要は激減。富良野のラベンダー栽培は衰退の一途をたどり、ついには富田氏の農園(現ファーム富田)のみになってしまったのです。駄目だと感じながらも富田氏は夢を捨てきれず、どうしても閉園に踏み切れなかった矢先、思いもよらぬ幸運がめぐってきたのです。昭和五十年、たまたま国鉄(現JR)のポスターに富良野のラベンダー畑が夏の扉を飾り、その美しい風景を目にしたカメランが全国から来訪したのです。そして彼らの写真が雑誌に掲載され





「お香」と私

小林杏奈

毎日が新しい人々との 出会いの連続です。

こんにちは。小林杏奈です。東京で生まれて育って二十二年。縁あって読売テレビのアナウンサーになり、大阪に移り住むことになり、はや六年が経ちました。あつという間の六年でしたが、一方でまだ六年しか経っていないんだという気持ちもあるんです。多分、毎日毎日いろいろな人にお会いして、仕事をしているからかもしれません。

私は今年の三月までは、朝の「ズームイン」、四月からは、夕方の「ten!」という番組を担当しています。仕事上ほとんど、にたくさんの方とお会いします。「ズームイン」では、アナウンサーや

私を癒してくれた 「お香」との出会

そんなときに出会い、助けてもらったのが、「お香」だったのです。アナウンサーとして自信をなくしていたその時期に、たまたま京都へ取材に行く機会がありました。その取材の合間に、ふと立ち寄ったお店で「お香」が焚かれていたのですが、今でもその「香り」にすごく癒されたのを覚えています。

もともと私は香りには興味があり、アロマセラピー二級の資格はもっていたのですが、なかなか生かせる機会がありませんでした。でもこの経験を引きかき、それからは毎日のようにお香を焚くようになりました。休みの日なんかは、一日中焚いている日もありました。マンションのエレベーターを降りた瞬間に、お香の

タレントさん以外にもディレクターを始めとするスタッフを含めると、関西ローカルの放送部分だけでも二十人くらいの人が関わっています。現在担当している「ten!」は、

夕方四時四十分から二時間あまりの放送で、放送時間も長く、最低でも五十人以上の人が関わっています。取材時も最低五人のスタッフで出かけ、取材先でも何人もの方にご挨拶させていただきますし、中継になると、大掛かりのものでは百人以上のスタッフが関わります。そして何より、放送を見ていただいている何十万人という方と、テレビを通してお会いしているわけです。毎週木曜日に放送している「秘密のケンミンSHOW」という番組（私もほんの一瞬だけ出演しています）は、おかげさまで視聴率もよく、間接的には何

香りがしていたりして…。

ほんとうにお香のおかげで、「無心になる時間」の大切さを知りました。同時に、心にゆとりを持つ大切さを感じました。今では、ストレスを適度に発散させながら楽しく仕事をさせていただいております。

また近頃ではお香だけではなく、キヤンドルやアロマオイル等々、いろいろな種類の香りも楽しんでいきます。全部あわせると、私の家には何十種類もの香りグッズがあるのですが、もちろん「梅栄堂」さんのお香も使わせていただいております。コーヒーの香りのするお香はおもしろいですね。私は家でも豆から挽くくらいのコーヒー好きですが、お香を焚きコーヒーの香りが漂うと、なんだか不思議な気分になります。気分転換したい時にはおススメの香りですね。

・PROFILE・

こばやしあんな
小林杏奈 プロフィール

東京都出身。
中央大学法学部卒。
2003年、アナウンサーとして読売テレビ放送に入社。
現在「ten!」、「秘密のケンミンSHOW」などの番組で活躍中。



百万人の方とお会いしているという計算になるんですね。今でもこの数字を考えると、テレビの前で話すことが本当に恐ろしくなるときもあります。実際に、入社して少し仕事にもなれて来た頃、一時期テレビの前で話すことが怖くなってしまった時がありました。だからといって、突然しゃべることをやめたとか、そういう事はなかったのが不幸中の幸いでしたが…：テレビカメラの前にいると全身から汗が噴き出してきたり、声が震えたり、本番前トイレから出るのがあまりにも嫌で、座りこんでしまったり。でも本番はくる。どうしよう。余計に気持ちは焦ってしま…：完全に悪循環ですよね。自分の心の中にストレスを抱え込んでしま…：発散する方法を見つけれなかったのです。

余談にはなりますが、私の知り合いに、スイスでバレエダンサーをしている友人がいるのですが、外国人のバレエダンサーも日本公演になると、お土産にお香を買って帰るそうなんです。海外では日本プームのようですが、これからお香がもっと世界に広がってこれればいいなと思っています。



香りア・ラ・カルト

▼オークの木に着生するオークモス



▼一定以上の標高がある林で
オークモスはよく育つ



※写真は「VENUS Vol.20」(国際香りと文化の会 2008)より転載

「シプレ調」の名香が続々と誕生し、ますますオークモスの存在が大きなものになりました。自然を取り巻く環境も厳しくなる現在、国際的な規制により生産量の制限もなされています。大切に使用されて、その深遠な香りの絶えることがありませんようにと願うばかりです。

ような香りを合わせ持った、複雑でありながら落ち着いた香りです。そしてその香りは他の香りと調和しやすく、また、すばらしい継続性があるため、貴重な香材として、多くの香水や化粧品に使用されています。特に、一九一七年に発表されたコティ社の香水「シプレー」のベースに使用され、人気を博して以来、「ミッコ」、「ミスディオール」、「カボシヤール」、「アラミス」など

梅栄堂
香りの文獻

オークモス

他の香材とうまく調和する深遠な香り

オークモスはその名が示すように、オーク(樫の木)の表皮に着生する薄緑色のコケの一種です。コケといってもキノコ・カビなどと同類の地衣類に属する植物で、和名は「ツノマタコケ」といいます。オークモスは中央・南ヨーロッパと北アフリカが主な産地ですが、すべてのオークの木に育つわけではなく、豊かな太陽と雨、そして一定以上の標高がある土地(六〇〇〜一五〇〇m)にあるオークの木が適しているようです。

オークモスは、着生してから三〜四年で五〜十五cmになり、枝から垂れ下るまで成長すると刈り取られて乾燥されます。その後は製造工場まで運ばれて、それぞれの工場独自の方法で処理された後、溶剤抽出され、オークモス油となります。オークモス油の香りは、森を想像させるような樹木の香りと、海を連想させる海藻の

●商品紹介

少しずついろんな
香りが楽しめる
IMAGINEシリーズ



二〇〇九年一月のニューヨーク・ギフトフェアで好評を頂戴した「IMAGINEシリーズ」をご紹介します。

本シリーズは昨年来、海外向けパッケージとして展開してまいりました五種類に、白檀、イチゴ、野生の草花を加え、ディスプレイも新たにご用意いたしました。よりバリエーション豊かになり、数ある中からお好みの香りを選んで頂

●話題

朝日放送「スーパーモーニング」

鳥越俊太郎のコメンテーターで人気の「スーパーモーニング」

しいお線香として梅栄堂の「煎香茶」(二期香)「残香飛」が紹介されました。また、ABCテレビ「おはようコール」でも新しいお線香として「残香飛ブック」がレポートされました。日本の文化の香りを聞く

旅人のふれあい誌「abi」では「堺のお香」と題して特集を組み、その老舗として、「和の Aroma」を創り続けてきた梅栄堂が紹介されました。南蛮貿易に始まる堺線香の歴史、明暦三年創業以来、三百五十年間線香一筋に歩んできた梅栄堂のこと、一本一本丹精こめて作り上げていく職人の匠など…そして今後のお線香について、「香りは嗜好性が優先されるもの。時代につれ、求められるものも変わってくるも

ける商品かと存じます。少しからお気軽に楽しめるお香として、また海外へのお土産としてもお奨め頂戴します。うよろしくお願いたします。



●IMAGINEシリーズ 40本入り箱立て付き 各525円 (本体価格 500円)

では、お彼岸のお墓参りに必要なお線香にも変化があるらしい…ということ、レポートがありました。その中で新

のです。』という中田社長の言葉も印象的でした。

緑茶の香りに人気

東京新聞(二月二十一日)夕刊の「コレ売れています」のコーナーで、伊藤園の緑茶を練り込んだお線香「煎香茶」が取り上げられました。残り香がすっきり爽やかで、お香がわりにする人が多く人気上昇中とか「ニューヨーク・ギフトフェア

昨年からの出展を始めたギフトフェアも今年の一月で三回目を迎えました。今回はアメリカの経済停滞を反映して、例年より入場者は少なめ。そんな中、梅栄堂の「IMAGINEシリーズ」はおかげさまで好評をいただきました。

- ☆ ホームページがリニューアルしました。
- ☆ お時間があるときに覗いてみてください。
- ☆ バックナンバーもご覧いただけます。
- ☆ <http://www.baieido.co.jp>

〈今号の表紙/マダムシマウ〉